

原子力の拡大案も含める

メキシコの新たな国家エネルギー戦略

メキシコ政府エネルギー省のJ・エレラ大臣は一日、「二〇一二年から二六年までの国家エネルギー戦略(ENE)」を公表し、既存のラグナベル原子力発電所に原子炉を二基増設する案も含め、今後十五年間に原子力と風力を組み合わせて総電力需要の二三%を賄うとする政策を提案した。同相は昨年十一月、十基の原子炉新設構想を破棄したものの、地球温暖化防止面での原子力の利点を再評価。現在のように天然ガス開採が低調な時期から先を見据えた場合、たとえ小規模でも原子力の設備拡大はあり得るとの結論に至ったとみられている。同戦略は議会の承認を得るため、提出済みとなっている。

メキシコのエネルギー事情

世界第七位の石油輸出国であるメキシコは石油で全輸出収入の一四%を得るとともに、国内の消費エネルギーについても六割を石油に、三割を天然ガスに依存。しかし近年の生産量は減少傾向にあるため、新たな石油・ガス資源の探査と開発に力を注いでいる。

二〇一〇年五月に原子力推進開発連邦電力委員会(CFE)が公表した長期投資計画では、十五年間に発電設備を現在の五千ワットから八千六百ワットまで増強することを提案。その一部として、二〇一八年までに十基の原子炉を新設(うち二基は同国で唯一のラグナベル原子炉に増設)する構想が含まれていた。しかし、北部のコアウ

イラ州境で大規模なシエールガス田が発見され、天然ガス・パイプライン三本の建設計画が具体化したことなどから、原子力の評価は発電コストやリードタイムなどの面で低下。昨年九月にエレラ大臣に就任したエレラ大臣は同年十一月、原子力大規模の廃案を明言していた。

ENEのポイント
こうした事実を背景とする今回の戦略は、エネルギー供給保証と経済効率促進のほかに、環境影響の観点からも一層持続可能な政策を推進することが基本原則。新たに追加した修正は、温室効果ガスの排出削減のため非化石燃料による発電シェアを現在の二〇・三%から二六年までに三五%に拡大することで、以下を含む七項目の優先目標を明記した。すなわち、①石油と天然ガスの資源を多様化する②すべての部門でエネルギーの効率化レベルを上げる③エネルギー部門からの環境影響を

を低減する④風力と原子力発電が約二三%の割合を占める⑤の移行に際して、政府は三五%のうち二三・四%を原子力と風力で発電する三つのシナリオを比較検討した。いずれも二〇二六年時の総電力消費量を四千七百九十六・五億kWhと想定し、設備は一億一千万kWhほど。水力や太陽光などでは大幅な容量拡大は見込めないという認識の下、原子力と風力を柱とする電源構成を唯一のオプションに限定したもので、シナリオ毎に両者の配分を変えている。

原子力のシェアが最も小さいシナリオ①では原子炉の増設はなく、二〇一一年現在の原子力シェアである三・九%は二五%に縮小される。一方、一八・一%と最も大きい原子力主導型シナリオ②では、出力四百四十万kWの原子炉七・八基の増設を想定。温室効果ガス排出量や環境汚染に関する外部コストの面でベストの選択肢だと評価している。また、これらの中間シ

ナリオにおける原子力のシェアは六・六%。国内唯一の原子力設備であるラグナベル原子炉に出力四百四十万kWの原子炉二基を増設するとしている。ただし、原子炉建設には技術的な実行可能性や資金面で調査が必要なほか、建設や許可などでの

長いリードタイムを要するとの懸念は指摘。ラグナベル原子炉の二基が福島第一原発と同じGE社製BWRであることも、メキシコでの原子力拡大気運を鈍らせる要因となっており、地元住民との十分な協議が必要との見方を示している。

炉路線を変更せずに原子力開発を続けた英国では、現在もGCRを改良したAGRが主流で、七サイト・十四基が稼働中。軽水炉はサイズウェルBの一基(百二十五万kW、PWR)だけである。

その後、2号機を二〇一一年六月に閉鎖する一方、1号機の運転は最終的に合計三回延長。ND Aと同発電所の運転会社、原子力規制当局は昨年十一月、これ以上の運転継続は経済的に見合わなくなる」とし、二月末付けで閉鎖する方針を公表していた。



新しい長期エネルギー戦略を説明するエレラ大臣

稼働中原子炉の中では世界最古だった英国のオールドベリー原子力発電所(写真)の1号機(GCR、二十三万kW)が二月二十九日に四十四年間の営業運転に終止符を打った。

世界最古の原子力発電所(写真)の1号機(GCR、二十三万kW)が二月二十九日に四十四年間の営業運転に終止符を打った。

世界最古の原子力発電所(写真)の1号機(GCR、二十三万kW)が二月二十九日に四十四年間の営業運転に終止符を打った。

世界最古の原子力発電所(写真)の1号機(GCR、二十三万kW)が二月二十九日に四十四年間の営業運転に終止符を打った。

世界最古の原子力発電所(写真)の1号機(GCR、二十三万kW)が二月二十九日に四十四年間の営業運転に終止符を打った。

世界最古の原子力発電所(写真)の1号機(GCR、二十三万kW)が二月二十九日に四十四年間の営業運転に終止符を打った。

世界最古の原子力発電所(写真)の1号機(GCR、二十三万kW)が二月二十九日に四十四年間の営業運転に終止符を打った。

中国と交渉開始で合意 トルコで第3原発計画浮上

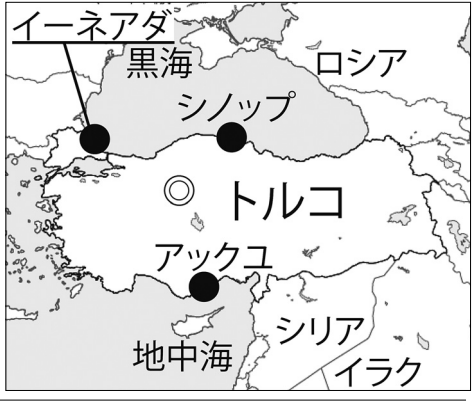
トルコ 首相府の投資促進機関が伝えた所によると、トルコ政府は国内第三番目の原子力発電所建設計画で中国と交渉を開始するようになった。イスタンブールを訪れていた中国の習近平副首相が二月二十二日にトルコのA・バシジャン副首相との会談で合意したもので、両国間の貿易協力拡大の一環という位置付けになる。



習副首相(左)とトルコのエルドアン首相(右)の会談

ラリ州に位置するイーネアタを挙げた。二〇一三年までに三か所で原子力発電所を建設するという同国の目標の一部で、ロシアの支援で建設予定の地中海沿岸のアククユ、日本と韓国が受注を争っている黒海沿岸のシノップに次ぐサイトだ。

二百億規模と言われるシノップ原発建設計画については、同国は二〇一〇年に韓国との交渉を打ち切った後、日本政府に優先交渉権を与えたが、福島事故後に交渉は長期にわたって



途絶。今年二月にはR・T・エルドアン首相が自ら、韓国の李明博大統領に交渉の再開を要請していた。

この関連で、日本政府もトルコとの原子力協力協定締結に向け、一月に交渉再開で合意した模様。今月から福島事故後初めて、同国の首都アンカラで実務者協議を実施するとの情報が伝えられている。

世界最古、44年間稼働 英国 オールドベリーを閉鎖

稼働中原子炉の中では世界最古だった英国のオールドベリー原子力発電所(写真)の1号機(GCR、二十三万kW)が二月二十九日に四十四年間の営業運転に終止符を打った。

その閉鎖により、十一サイト中、すでに十サイト・二十四基のGCRが閉鎖されたことになり、残すはアンクルシー島にあるウィルファ発電所の二基(各五十六・五万kW)のみ。しかし、ガス

を閉鎖する見通しだ。カザトムプロムは今年中に複数のウラン鉱山で新たな生産関連活動が始まったことを挙げた。すなわちセミスバイ鉱山の第二サイトで年間二百兆の生産能力が追加されたほか、ブデンノフスクの第二サイトでは原位置抽出法(ISL)で能力を三兆まで増強。同第三サイトでも千トンの採鉱設備が建設されたのに加え、管理事務所と居住区の建設が開始されている。昨年十二月には、クスロルダ州でISLに不可欠な硫酸供給施設の起動手が実施されており、今年中にも本格的な操業

を閉鎖する方針を公表していた。これら二基がこれまで発電した電力量は千三百七十五億kWhで、百万帯が二十年以上使用するのに十分な量。運転期間延長後の発電量だけで七十四億kWhに達しており、三億五千万ポンドの料金収入につながったとしている。

昨年約2万トンのウラン生産 カザフスタンの国産原子力企業は約九割を占める

世界全体の生産量である二万九千四百五十トンのうち、二〇一一年は約二万九千九百九十トンを占めるまでになった。同社によると、この値を公表した。ウラン生産量が約二万トンを達するなど、二〇〇九年にカナダを抜いて世界第一位に躍り出て以来、主導的な地位を維持。これに加えて、新たな燃料製造工場の建設等、燃料サイクルのフロントエンド部分で事業の多様化を進めるなど、野心的な戦略を展開している。

世界原子力協会の記録として、二〇一一年実績では、二〇一〇年実績より約一割増しの二万七千八百三十三トンを生産した同国だが、一年の生産量はこれを九割上回る二万九千四百五十トンの生産能力が追加された。同社によると、この値を公表した。ウラン生産量が約二万トンを達するなど、二〇〇九年にカナダを抜いて世界第一位に躍り出て以来、主導的な地位を維持。これに加えて、新たな燃料製造工場の建設等、燃料サイクルのフロントエンド部分で事業の多様化を進めるなど、野心的な戦略を展開している。

世界原子力協会の記録として、二〇一一年実績では、二〇一〇年実績より約一割増しの二万七千八百三十三トンを生産した同国だが、一年の生産量はこれを九割上回る二万九千四百五十トンの生産能力が追加された。同社によると、この値を公表した。ウラン生産量が約二万トンを達するなど、二〇〇九年にカナダを抜いて世界第一位に躍り出て以来、主導的な地位を維持。これに加えて、新たな燃料製造工場の建設等、燃料サイクルのフロントエンド部分で事業の多様化を進めるなど、野心的な戦略を展開している。

世界原子力協会の記録として、二〇一一年実績では、二〇一〇年実績より約一割増しの二万七千八百三十三トンを生産した同国だが、一年の生産量はこれを九割上回る二万九千四百五十トンの生産能力が追加された。同社によると、この値を公表した。ウラン生産量が約二万トンを達するなど、二〇〇九年にカナダを抜いて世界第一位に躍り出て以来、主導的な地位を維持。これに加えて、新たな燃料製造工場の建設等、燃料サイクルのフロントエンド部分で事業の多様化を進めるなど、野心的な戦略を展開している。



建設されたダズロル州の硫酸供給施設